



2022年5月12日

各 位

会 社 名 古河機械金属株式会社  
代表者名 代表取締役社長 中戸川稔  
(コード番号 5715 東証プライム市場)  
問合せ先 取締役経営企画部長 酒井宏之  
(電 話 番 号 03-6636-9501)

#### 小名浜製錬株式会社との委託製錬契約終了に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、当社グループ中核事業会社である古河メタルリソース株式会社（東京都千代田区大手町2-6-4 社長：齋藤雅典）と委託製錬先である小名浜製錬株式会社との間で締結している委託製錬契約を2023年3月末を以って終了することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、上記委託製錬契約の終了に合わせ、古河メタルリソース株式会社が保有する小名浜製錬株式会社の全株式について、三菱マテリアル株式会社に譲渡することといたしました。

#### 記

##### 1. 契約終了の理由

当社は、金属部門の中核事業会社である古河メタルリソース株式会社（以下、「古河メタルリソース」）において、銅の委託製錬事業を行っています。委託製錬事業は、国際市況動向や鉱石買鉱条件の影響を受け、収益の変動が大きく、その採算性と将来性を見極めが重点課題であり、委託製錬事業の抜本的な見直しを検討してきました。

特に、近年の銅製錬事業環境については、収益の源泉である鉱山会社からの買鉱条件収入（TC/RC）が、主に中国の旺盛な買鉱需要を背景とした需給の不安定化などにより、製錬会社側に不利な状態が継続しており、また、今後においても買鉱条件収入が大きく改善することは見込みにくい状況にあります。一方、製錬会社においては、増加する環境対策投資および老朽化する施設に対する維持更新投資ならびにその減価償却費の負担だけでなく、電力料や重油代などの操業費用の高騰などにより、製錬費の高止まり傾向が続き、その結果、製錬費が買鉱条件収入を上回る状態が継続しています。

古河メタルリソースでは、こうした事業環境による委託製錬事業の赤字構造に対し、不採算である銅地金および硫酸の輸出を削減するために、段階的な減産を行ってきましたが、更なる抜本的な取り組みが必要と判断し、銅の年間生産量の約34%（約24,000トン）を委託する小名浜製錬株式会社との委託製錬契約を終了することとしました。

## 2. 契約終了日および終了委託銅生産量

委託製錬契約終了日 : 2023年3月31日

終了委託銅生産量 : 約24,000トン/年

※古河メタルリソースの2022年度の銅生産量(計画)約70,800トン/年の約34%となります。

## 3. 契約終了の相手先の概要

名称 : 小名浜製錬株式会社  
所在地 : 東京都千代田区神田司町二丁目2番2号  
代表者の役職・氏名 : 取締役社長 山田高寛  
設立年 : 1963年  
資本金 : 6,999百万円  
株主構成 : 三菱マテリアル株式会社 55.714%  
DOWAメタルマイン株式会社 31.621%  
古河メタルリソース株式会社 12.665%

## 4. 今後の見通し

小名浜製錬株式会社との委託製錬契約の終了に伴い、2023年度の古河メタルリソースの銅生産量は約46,600トン/年となる見込みで、その委託製錬先は当社の持分法適用会社でもある日比共同製錬株式会社のみとなりますが、古河メタルリソースの国内の銅地金の販売量は約40,000トン/年のため、不採算である輸出を大幅に削減することができます。今回の委託製錬契約の終了により、金属部門の重点課題である委託製錬事業の抜本的な見直しに目処が立ち、委託損益の採算確保は可能であると判断しており、2023年度以降は、国内の需要家を中心に安定的に銅地金の供給を行っていきます。

## 5. 業績への影響

契約終了が2023年3月末のため2023年3月期の金属部門の業績への影響はありません。2024年3月期の金属部門の業績への影響は、2023年3月期予想の前提条件である銅価9,400米ドル/トン、為替120円/ドルで試算した場合、小名浜製錬との委託製錬終了に伴う銅生産量の減少を主因として、売上高は、2023年3月期予想110,700百万円に対し約40,000百万円の減収となりますが、不採算である輸出の減少、委託損益の採算改善を見込み、営業利益は、2023年3月期予想0百万円に対し約400百万円の増益となります。また、貸借対照表への影響は、売掛金、棚卸資産等の減により総資産が約8,500百万円減少する見込みです。

以上